

大道上遺跡

平成 8 年度中部電力松島変電所拡張工事に伴う

埋蔵文化財第 2 次緊急発掘調査報告書

1997年

中部電力株式会社
長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

大道上遺跡

平成8年度中部電力松島変電所拡張工事に伴う
埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書

1997年

中部電力株式会社
長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

序

箕輪町は、伊那谷の北部、歴史の古い藤原の里にあり、東西にそびえる山脈と、天竜川や山から流れる中小河川、そして河岸段丘に代表される複雑な地形とが織りなす、水と緑の自然あふれる美しい郷土であります。遙か先史の頃より、河川を中心とした水辺に人々が暮らし始め、彼ら先人達の日々の努力の積み重ねによって、今日の箕輪町へと発展してきました。その証として、私たちの町には、輝かしい文化と歴史を今に伝える多くの文化財があります。その多くは、日頃私たちの目に触れる事の少ない、遺跡、古墳などの埋蔵文化財であります。

昭和48年度、長野県教育委員会により、中央自動車道西宮線建設工事に先だつ緊急発掘調査を実施した堂地、中道の両遺跡が、本遺跡の北側に位置しています。その調査では、縄文時代、奈良・平安時代を中心に、住居跡を始めとする遺構数々が検出され、当時の生活を物語る土器や石器などの貴重な遺物が豊富に出土しています。本遺跡は、これら遺跡に非常に関連性を持ち、深沢川右岸遺跡群の中でも重要な遺跡の一つと言えるでしょう。

今回の調査は、中部電力株式会社の所有施設である、松島変電所の改修と増強工事に先だち、町教育委員会が貴社から委託を受けて実施した、第2次緊急発掘調査であります。内容としては、前回の補足的役割を果たしたもので、学術的には貴重な資料を収めることができました。

詳細な内容につきましては、本書の中で詳細に記しております。多くの皆様に広く活用され、郷土の歴史解明の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、深いご理解とご協力をいただきました、中部電力株式会社を始め、地元の松島区、そして調査関係者の皆様方に、本書の刊行をもちまして心から感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会

教育長 藤沢 健太郎

例　　言

1. 本書は、長野県上伊那郡箕輪町中箕輪11,127番地1先(旧町道406号線)に所在する大道上遺跡の第2次緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、中部電力株式会社より委託を受けて、箕輪町教育委員会が行ったものである。
平成8年5月27日から6月7日まで発掘作業を、6月10日から9年3月21日まで整理作業及び調査報告書の作成作業を行った。
3. 本書を作成するにあたり、作業分担を以下のとおり行った。
造構図の整理・トレースー赤松 茂、池上賢司、福沢幸一
押図作成ー赤松 茂、池上賢司、垣内美保、小松峰人、後藤主計
写真撮影・図版作成ー赤松 茂、池上賢司
執筆ー赤松 茂
4. 本書の編集は、柴 登巳夫、赤松 茂、池上賢司、垣内美保、小松峰人、後藤主計、福沢幸一が行った。
5. 図版及び写真類は、すべて箕輪町教育委員会が保管している。広く活用されたい。
6. 本調査及び本書の作成にあたり、各機関並びに個人の方々にご指導ご協力をいただいた。
記して感謝申し上げる。
黒坂周平、松島区、長野県文化財保護協会

凡　　例

1. 実測図は、次の縮尺に統一した。
全体図1:400、土層断面1:60
2. 土層の色調は、「新版 標準土色帖」を用いて記してある。

本文目次

序

例　　首

凡　　例

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査の経過	1
第2節 発掘調査の概要	2
第3節 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 自然環境	4
第2節 歴史環境	5
第Ⅲ章 調査結果	7
第1節 調査方法と結果概要	7
第Ⅳ章 まとめ	10

図版、報告書抄録

挿図目次

第1図 位置図	1
第2図 周辺遺跡分布図	6
第3図 調査区設定図	7
第4図 トレンチ設定図	8
第5図 土層図	9

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5
-------------------	---

図版目次

図版1 調査区近景（第1次調査状況）、調査区全景（北方より）	
図版2 第1トレンチ断面、第2トレンチ断面、第3トレンチ断面	
図版3 第4トレンチ断面、調査風景、春日街道路碑除幕式風景	

第Ⅰ章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の経過

大道上遺跡は、箕輪町松島地籍の北西部、天竜川に注ぐ中小河川によって形成された複合扇状地のほぼ中央部に位置し、深沢川右岸の微傾斜地に立地する。深沢川の両岸には、集落址を中心とした縄文、弥生、古墳、奈良・平安時代の複合遺跡地帯が広がる。折しも、中央自動車道が本流路を横断するにあたり、その建設工事に先だって、右岸では堂地遺跡、左岸は大出地区の中道遺跡の発掘調査が実施された。その結果、両遺跡とも縄文、奈良・平安時代の大集落遺跡であることが判明し、特に後者の時代では、伊那谷北部を代表する遺跡の一つとして広く知られるようになった。また、想定される本遺跡の範囲は、中部電力松島変電所をほぼ中心とするその周辺部が考えられる。しかし、昭和3年に「西天竜幹線水路」が完成したのを契機に、それ以東における大規模な開田工事が実施され、遺跡地を含む一帯が水田地帯へと変貌を遂げてしまい、現況ではその詳細な範囲の確定は困難を極めると言える。



第1図 位置図 (1 : 25,000)

平成5年、中部電力株式会社より、将来的に安定した電力供給に対応するため、「東京電力」及び「関西電力」との中継地、かつ撲点的役割を果たす松島変電所の増強を図るため、既存施設の改修そして用地拡張を行う開発計画について町教育委員会に照会があった。開発計画のある用地内における本遺跡の保護のため、同社の全面的協力の下、遺構・遺物の有無を確認するための試掘調査を平成6年度に、その結果による記録保存を目的とした発掘調査を7年度に実施し、大きな成果を収めている。

そして今回の調査は、現在変電所北側で実施されている、同工事箇所内の未調査であった旧町道406号線の移設により廃道となった、約450m²を対象とするものである。町教育委員会は、貴社から前年同様に業務の委託を受け、改めて調査団を結成し調査を行う運びとなった。

第2節 発掘調査の概要

- 1 遺 跡 名 大道上遺跡
- 2 所 在 地 長野県伊那郡箕輪町大字中箕輪11,127番地1先（旧町道406号線）
- 3 発掘調査期間 平成8年5月27日～6月7日
- 4 整理期間 平成8年6月10日～9年3月21日
- 5 委託契約日 平成8年5月9日（費用減額による変更契約日一同年11月13日）
- 6 事 務 局 教育長 堀口 泉（平成8年12月離任）
教育長 藤沢健太郎（平成8年12月就任）
副 参 事 柴 登巳夫（箕輪町郷土博物館館長）
副 主 幹 赤松 茂（同館学芸員）
主 事 柴 秀毅（同館学芸員）
臨時職員 酒井峰子
臨時職員 根橋とし子
臨時職員 穂谷明子
- 7 調 査 団
団長 堀口 泉、藤沢健太郎
担当者 柴 登巳夫
調査主任 赤松 茂
調査員 福沢幸一、池上賢司
調査団員 井沢和幸、泉沢徳三郎、井上隆次、遠藤 茂、大槻茂範、大槻泰人、
垣内美保、春日英美、片桐 勇、倉田千明、後藤主計、小松峰人、筆川正秋、
戸田隆志、藤沢具明、伯耆原 正、堀 五百治、水田重雄、山田武志、
若林 博

第3節 調査日誌

5月27日（月）晴

重機による表土除去を行う。

5月28日（火）晴

終日、重機による表土除去及びトレーナーの掘削を行う。

5月31日（金）晴時々曇り

手作業による遺構上面確認作業、トレーナー壁面精査、土層測量記録作業を行った。

6月3日（月）晴

調査区平面測量、写真撮影を行った。

6月7日（金）晴

重機による埋め戻しが完了し、調査が終了した。

12月13日（金）晴

変電所用地内の一角に建立した「春日街道跡碑」の、完成除幕式を行った。

第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境

箕輪町は、西は木曾山脈、東は赤石山脈に囲まれた伊那盆地の北方にあり、諏訪湖を源とする天竜川が町のはば中央を東西に二分する形で南流している。天竜川西岸に発達した広大な扇状地は、木曾山系の山々から天竜川に流れ込む中小河川によって形成された複合扇状地である。北から、桑沢川、北の沢川、深沢川、帶無川、大泉川、小沢川と続き、南ほど流路が長くなっている。それは、西側の山々が北から南にかけて高さを増しているためで、その流路に比例して山麓に形成される扇状地の規模も大きくなっている。

この扇状地における地質構造は、ローム層とその下の砂岩・粘板岩を主とする円礫層・砂の層で構成されている。天竜川はその末端部を南流し、流路に沿って河岸段丘を造り上げている。段丘の突端部は、天竜川や中小河川の氾濫による水害を受けにくく東側に面する緩やかな傾斜地である。段丘下には、扇頂部や扇央部より地下に浸透した地下水が伏流水となって天竜礫層と沖積層の境に湧き出る湧水が多く、扇状地を流れる小河川の水利と合わせ、豊かな水源に恵まれている。また、段丘崖下には、天竜川による広大な沖積地帯が広がる。

現在箕輪町における地勢は、東西に連なる山々が大部分を占めることから、総面積の約64%



上空より遺跡地を望む（1：8,000）

が林野で、約28%が農耕地、約8%が宅地等その他に利用されている。しかし、ほ状整備等の大規模な土地改良事業により、近年農耕地を拡大する以前の扇状地上は、クリ、ナラ、クヌギなどの落葉広葉樹を中心とした自然の林野が広がっていたと言われている。また一帯は、カモシカ、ニホンジカ、イノシシ、キツネ、タヌキなどの中小の動物たちの生息域でもあった。

第2節 歴史環境

箕輪町は、天竜川を挟んで典型的な河岸段丘と扇状地が形成された地形で、湧水にも恵まれ先史より人が居住しやすい好的な所と言える。町内にはそんな原始・古代人たちが残した足跡とも言うべき多くの遺跡が散在し、現在のところ包蔵地176か所、古墳24基が確認され、上伊那群内においても屈指の遺跡地帯として知られている。

天竜川右岸の遺跡の分布は、河岸段丘の突端部の遺跡群（6～10）と、天竜川に注ぐ小河川の両岸の遺跡群（1～5）、東西の山裾の遺跡群、段丘崖下の箕輪遺跡に代表される低湿地遺跡群などに大別できる。これら遺跡の立地は、水利や地形、居住や狩猟・採集、農耕等のそれぞれ人の活動目的の違いなどによりその特徴が概観できるが、いずれにしても自然環境が立地条件と大きく関わっていたと考えられる。

今後、各遺跡から出土した遺物及び各構造をより研究していくとともに、更に文化財としての重要性を視野に入れ、これらを保護、保存していくことが大切である。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地籍	立地	時代						備考
				旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	
1	大道上	松島	扇央	○			○			平成6・7年度発掘調査実施
2	中道	大出	扇央	○		○	○	○	○	昭和48年度県教委、63・平成5・6年度発掘調査実施
3	カンゼン	大出	扇央				○			
4	大出	大出	扇央	○			○			
5	堂地	松島	扇央	○	○		○			昭和48年度県教委、62・平成5年度発掘調査実施
6	臼杵洞	松島	段丘	○						
7	本城	松島	段丘	○	○	○	○	○	○	伝松島氏城跡含む 平成5・6年度発掘調査実施
8	大夫塚古墳	大出	扇央			○				
9	松島王墓古墳	松島	段丘			○				県史跡
10	大出城	大出	段丘						○	



第2図 周辺遭難分布図 (1 : 10,000)

第III章 調査結果

第1節 調査方法と結果概要

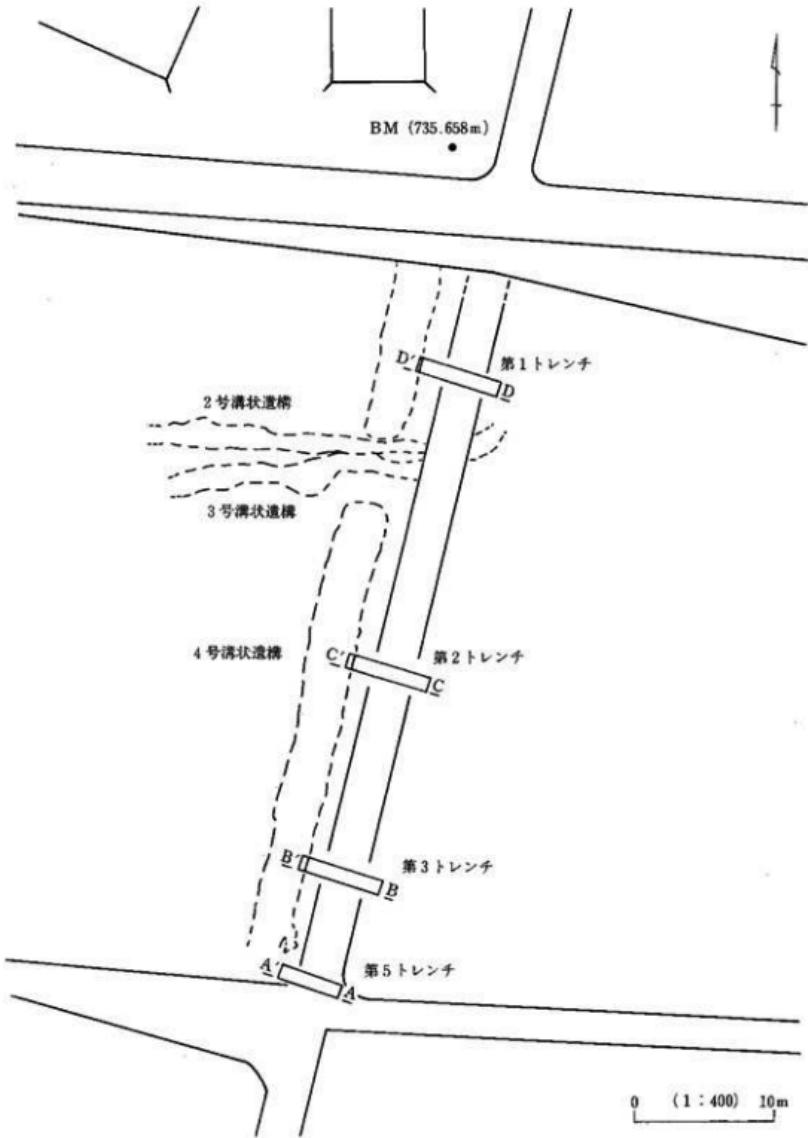
作業は、まず大型バックホーで旧道路部分のアスファルトを除去し、4か所に設定したトレーナーを更にバックホーで掘削した。またトレーナーのうち2か所は、埋め戻されている4号溝状造構の一部を横切る形に通じて掘削した。次に、人力でのトレーナー内の残土の除去と、造構上面確認作業→壁面の精査→土層堆積状況の観察→土層断面・全体平面等の測量→全体写真撮影の手順で進めた。

グリッドは、改めて設定せず、前回のものに準じた。記録作業における標高の割り出しも、水準点から調査区北側の送電柱のコンクリートに移動してある、任意のベンチマークを再利用した(735.658m)。

調査結果としては当初予想していたように、旧道路下には0.5~1m幅で二筋の水道管埋設による搅乱層がおよそ1.5m前後の深さまで見られ、調査対象箇所の大部分を占めていた。更に、道路の舗装敷設工事と思われる、削平と整地が行われていた。地盤はかなり堅固な状況であつ



第3図 調査区設定図 (1 : 2,500)



第4図 トレンチ設定図

たが、かつてここが春日街道筋であったことで、長い年月の間に踏み固められたことによるものか、または路盤工事の際に固められたのかは、その因果関係はわからなかった。また遺構は、前回の遺構検出層が僅かに残っていた箇所と、既に削られた箇所とがあつて、2・3号溝状遺構の一部と思われる僅かな凹みは確認できたが、新しい遺構はもとより、遺物の検出にも至らなかった。

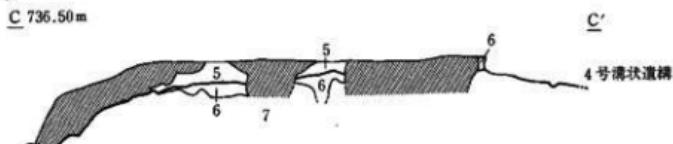
第1トレンチ



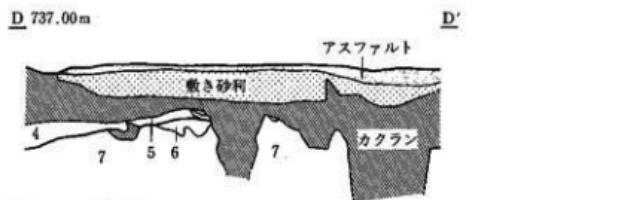
第2トレンチ



第3トレンチ



第5トレンチ



1層：10Y R3/1（黒褐色）粒1～5mmの礫を3%含む。

2層：7.5Y R4/3（褐色）粒1～2mmの礫を3%含む。

3層：7.5Y R3/2（赤褐色）粒1～2mmの礫を3%含む。

4層：10Y R3/2（黒褐色）

5層：7.5Y R3/2（黒褐色）ローム粒子を30%、炭化物を1%含む。

6層：10Y R4/4（褐色）ローム粒子50%含む。遺構確認層。

7層：10Y R5/6（黄褐色）チフラ層。

8層：10Y R5/4（にじい黄褐色）礫を50%以上含む。

0 (1 : 60) 2 m

第5図 土層図

第IV章　まとめ

本遺跡は、深沢川の右岸に帶状に広がる堂地遺跡に代表される遺跡群に属している。平成7年度に実施した第1次調査では、縄文から平安時代の遺構遺物の数々が出土し、大きな成果を得ている。

特に前回の調査では、黒坂周平（長野県文化財保護協会会長）氏、木下 良（日本古代交通研究会会长）氏、並びに高橋美久二（滋賀県立大学助教授）氏らの視察により、道路遺構、即ち「東山道」としての認定を示唆する見解を載っている。また、各新聞社をはじめとする報道機関の発表により、大きな注目を集め、現地説明会では町内外から多くの人々が現地に訪れた。

さて今回の調査は、前回同様に関心を寄せられる中での実施であったが、第III章でも述べたように、道路の舗装と水道管理設により調査対象箇所の大部分が既に破壊され、残念ながら前回の課題であった4号溝状遺構と他の既出遺構との関連性や、各遺構の繼続性など、新たな情報を得ることに至らなかった。本開発事業による限られた範囲での調査結果としては、遺跡の全体像を推測することは難しく、課題や問題点を抱えてしまったと言える。あらゆる分野の研究者の方々から、様々な角度からこの遺跡を検証していただき、郷土の歴史解明の一助となることを望む次第である。

なお末筆にあたり、本事業に多大なご理解とご協力をいただいた中部電力株式会社飯田支店をはじめとする関係諸機関、多大なご助言とご教授をいただいた各研究者の方々、並びに地元松島区の地域住民の皆様、そして直接調査にご尽力いただいた調査関係者の皆様に、本書の刊行をもって改めてお礼を申し上げたい。

参考・引用文献（著者名50音順）

- | | | |
|-------------|------|---|
| 木下 良・坂盐秀一 | 1994 | 「対談・古代の道を語る」季刊考古学第46号 雄山閣 |
| 木下 良 | 1994 | 「古代道路の地表遺構」季刊考古学第46号 雄山閣 |
| 黒坂周平 | 1992 | 「東山道の実證的研究」吉川弘文館 |
| 柴 登巳夫 | 1983 | 「東山道 深沢の駅についての一考察」伊那路第27巻3号 |
| 柴 登巳夫 | 1995 | 「大道上遺跡発掘調査 推定東山道の検出－現地説明会より」信濃考古No143 長野県考古学会 |
| 長野県教育委員会 | 1974 | 48『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』箕輪町 |
| 長野県史刊行会 | 1985 | 長野県史 考古資料編 全1巻(2) 中・南信版 |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会 | 1976 | 箕輪町誌 第1巻 自然・現代編 |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会 | 1986 | 箕輪町誌 第2巻 歴史編 |
| 箕輪町教育委員会 | 1989 | 「堂地・中道遺跡」 |
| 箕輪町教育委員会 | 1995 | 「堂地・中道遺跡」第2次 |
| 箕輪町教育委員会 | 1995 | 「松島大原遺跡」 |
| 箕輪町教育委員会 | 1996 | 「大道上遺跡」 |

図 版



調査区近景（第1次調査状況）



調査区全景（北方より）

図版 2



第1 レンチ断面



第2 レンチ断面



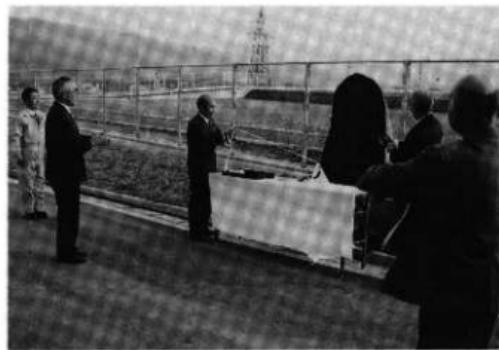
第3 レンチ断面



第4 レンチ断面



調査風景



春日街道跡除幕式風景

報告書抄録

ふりがな	おおみちうえいせき						
書名	大道上遺跡						
副書名	平成8年度中部電力松島変電所拡張工事に伴う埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
著者名	赤松 茂						
編集機関	笑輪町教育委員会						
所在地	長野県上伊那郡笑輪町大字中笑輪10,291番地 TEL 0265-79-3111㈹						
発行年月日	1997年3月21日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
大道上	長野県上伊那郡笑輪町大字中笑輪 11,127番地1 先(旧町道406 号線)	50 2129	35度 55分 10秒	137度 58分 46秒	19960527 19960607	450	中部電力松島 変電所 拡張工事
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大道上	集落址 溝址	織文中期 織文後期 奈良~平安 近・現代			昭和46年に県教育委員会 (中央道建設)、同62・64年に 町教育委員会(県道沢尻 笑輪線建設)が近接する當 地遺跡の緊急発掘調査を実 施している。地形の並びか ら、上記遺跡と本遺跡は、 同遺跡に隣接、もしくは繼 続している。 また、遺跡地内またはそ の周辺が、「東山道」の通過 推定地の一つとして、論議 を呼んでいる。		

大道上遺跡

平成8年度中部電力松島変電所拡張工事に
伴う埋蔵文化財第2次緊急発掘調査報告書

平成9年3月21日 印刷

平成9年3月21日 発行

発行所 中部電力株式会社
長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

印刷所 ほおづき書籍株式会社